

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-199988

(P2002-199988A)

(43) 公開日 平成14年7月16日 (2002.7.16)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームト* (参考)
A 4 7 J 37/07		A 4 7 J 37/07	4 B 0 4 0
F 2 4 B 1/20		F 2 4 B 1/20	
13/00		13/00	A

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-402019 (P2000-402019)

(22) 出願日 平成12年12月28日 (2000. 12. 28)

(71) 出願人 591069020

株式会社グリーンライフ

新潟県三条市南四日町4丁目1番9号

(72) 発明者 外山 晴一

新潟県三条市南四日町4丁目1番9号 株

式会社グリーンライフ内

(74) 代理人 100091373

弁理士 吉井 剛 (外1名)

Fターム (参考) 4B040 AA02 AA04 AA08 AC01 AC02

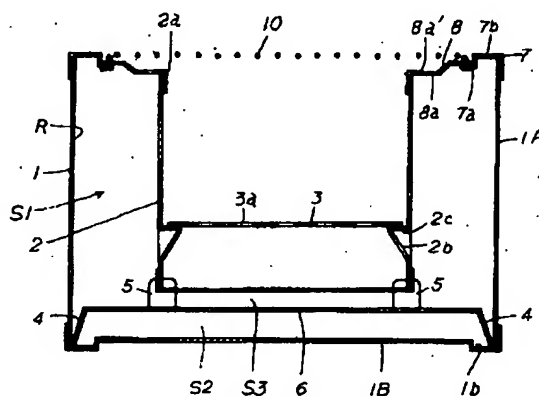
AD04 AE13 CA03 CA16 EA07

(54) 【発明の名称】 コンロ

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、極めて商品価値の高い画期的なコンロを提供することを目的とする。

【解決手段】 外体1と、この外体1内に配設され上部に開口部2aを有する内体2とから成り、内体2内には火格子3が設けられ、また、外体1と内体2との間には所定巾の空間が形成されたコンロであって、外体1の内底部には該内底部に載置される脚部4及び外体1の内側部に当接する当接部5を有し、外体1の内底部との間に所定巾の断熱空間を保持せしめることが可能な断熱空間形成用板材6を設けたものである。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 外体と、この外体内に配設され上部に開口部を有する内体とから成り、内体内には火格子が設けられ、また、外体と内体との間には所定巾の空間が形成されたコンロであって、外体の内底部には該内底部に載置される脚部及び外体の内側部に当接する当接部を有し、外体の内底部との間に所定巾の断熱空間を保持せしめることが可能な断熱空間形成用板材が設けられていることを特徴とするコンロ。

【請求項2】 請求項1記載のコンロにおいて、前記脚部及び当接部を断熱空間形成用板材の一部を折曲形成して構成したことを特徴とするコンロ。

【請求項3】 請求項1、2いずれか1項に記載のコンロにおいて、前記外体と内体との間に形成される空間は、一の箇所から導入される外気が他の箇所から導出される空気流通路に構成されていることを特徴とするコンロ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コンロ、特にバーベキューコンロに関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来から、外体と、この外体内に配設され上部に開口部を有する内体とで構成される断熱構造式のバーベキューコンロ（以下、従来例という。）が提案されている。

【0003】この従来例は、外体内に内体を所定の空間（断熱空間）を介在せしめて吊り下げ状態に配設し、且つ、内体の周壁及び底壁に石綿（アスベスト）などの断熱材を設けることで、内体内で生じる熱が外部に伝わるのを抑制し、外体の表面が高温になるのを防止している。

【0004】しかしながら、従来例に設けられる石綿は高価であり、しかも、この断熱材を設ける工程が別途必要になるなどコスト面で問題点があり、しかも、量産性の面においても問題点がある。更に、石綿は周知の通り公害の問題も有している。

【0005】本発明は、上述の問題点を解決するもので、確実に断熱効果を発揮し、コスト安にして量産性に秀れたコンロを提供するものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】添付図面を参照して本発明の要旨を説明する。

【0007】外体1と、この外体1内に配設され上部に開口部2aを有する内体2とから成り、内体2内には火格子3が設けられ、また、外体1と内体2との間には所定巾の空間が形成されたコンロであって、外体1の内底部には該内底部に載置される脚部4及び外体1の内側部に当接する当接部5を有し、外体1の内底部との間に所定巾の断熱空間を保持せしめることが可能な断熱空間形

成用板材6が設けられていることを特徴とするコンロに係るものである。

【0008】また、請求項1記載のコンロにおいて、前記脚部4及び当接部5を断熱空間形成用板材6の一部を折曲形成して構成したことを特徴とするコンロに係るものである。

【0009】また、請求項1、2いずれか1項に記載のコンロにおいて、前記外体1と内体2との間に形成される空間は、一の箇所から導入される外気が他の箇所から導出される空気流通路Rに構成されていることを特徴とするコンロに係るものである。

【0010】

【発明の作用及び効果】本発明は、例えば内体2内の火格子3上で燃料（炭）を燃焼させた際、外体1と内体2との間に形成された空間により断熱効果が発揮され、更に、外体1の内底部に断熱空間形成用板材6を設けることで、該断熱空間形成用板材6と外体1の内底部との間に断熱空間が形成され、この断熱空間によっても断熱効果が発揮されることになる。

【0011】従って、本発明によれば、外体1と内体2との間に空間がある為、それだけ外体1への伝熱を抑制でき、更に、外体1の内底部には断熱空間形成用板材6が配設され、この断熱空間形成用板材6により、外体1の内底部の上方に断熱空間が形成されるから、この断熱空間及び断熱空間形成用板材6により内体2内で燃焼する燃料（炭）から生じる熱が遮られて外体1の底部への伝熱が抑制され、最適な卓上用のコンロとなる。

【0012】また、本発明は、外体1の内底部上方に断熱空間を形成する手段として外体1の内底部に載置される脚部4及び外体1の内側部に当接する当接部5を有する断熱空間形成用板材6を採用したから、外体1内での収まりが非常に良く確実にその機能を発揮し、しかも、板材故に従来例に比して安価に製造できコスト面において秀れるとともに、簡易構造であるから量産性にも秀れることになる。

【0013】以上、本発明は、極めて商品価値の高い画期的なものとなる。

【0014】

【発明の実施の態様】図面は本発明の一実施例を図示したものであり、以下に説明する。

【0015】外体1は、図1に図示したように適宜な金属製の部材で形成したものであり、周壁部材1Aと底壁部材1Bとから成り、この周壁部材1Aには多数の貫通孔1aが設けられている。この外体1の周面に設けられた貫通孔1aは、外体1内に内体2を所定の空間S1を介して配設させた際、外体1と内体2との間の該空間S1内に外気を導入するための空気導入孔となる。

【0016】また、外体1は、上部開口縁部に環状の係止部材7が被嵌連結されている。

【0017】この係止部材7は、図1～4に図示したよ

うに網体10を載置でき且つ内体2を吊り下げ状態で係止し得る段部7aが形成されており、更に、係止部材7の上段面には多数の貫通孔7bが設けられている。この係止部材7に設けられた貫通孔7bは、空間S1内を通過した空気を外部へ導出する空気導出孔であり、この空気導出機能を有する貫通孔7bと、前述した空気導入機能を有する貫通孔1aと空間S1とで空気流通路Rが構成されている。尚、この貫通孔7bは串焼きの際に串を立てる部位としても使用される。

【0018】また、外体1は、内底部に断熱空間形成用10 板材6が配設されている。

【0019】この断熱空間形成用板材6は、図2、5に図示したように適宜な金属製の部材を板状に形成したものであり、その前後端縁には外体1の内底部1bに接触状態で載置される脚部4が折曲形成され、左右端縁には外体1の内側部1cに当接する当接部5が折曲形成されている。尚、この当接部5に外体1の周壁部材1Aに形成した貫通孔1aに係止して固定する係止片などを設けても良い。

【0020】従って、この断熱空間形成用板材6によ20 り、外体1の内底部1bと内体2の外底面との間に2層構造の断熱空間S2、S3が形成される。

【0021】また、外体1は、その底壁部材1Bの裏面四隅に接地部材11が付設されている。

【0022】内体2は、図2～4に図示したように適宜な金属製の部材で形成したものであり、上部開口縁部に外方に向けて鏝部8（鏝片）が突出形成されている。

【0023】この鏝部8は、外体1に係る係止部材7の30 段部7aに係止し得るように構成されており、この鏝部8を係止部材7の段部7aに係止させることで、内体2は、外体1内に所定巾の空間S1を介して吊り下げ状態で配設されることになる。

【0024】また、内体2の上部開口縁部にして鏝部8の内側には段部8aが形成され、この段部8aには多数の貫通孔8a'が形成されている。尚、内体2の側面下方位置には適宜数の貫通孔2bが形成されており、この貫通孔2bにより内体2内に空気が導入され、燃料の良好な燃焼が達成される。

【0025】また、内体2は、その内面に突出部2cが40 形成されており、この突出部2cにより孔3aを備えた火格子3が内体2内に架設状態で配設される。

【0026】符号9は搬送用把手である。

【0027】本実施例は上述のように構成したから、例えば内体2内の火格子3上で燃料（炭）を燃焼させた際、外体1と内体2との間に形成された空間により断熱効果が発揮され、更に、外体1の内底部に断熱空間形成用板材6を設けることで、該断熱空間形成用板材6と外体1の内底部との間に断熱空間が形成され、この断熱空間によっても断熱効果が発揮されることになる。

【0028】よって、本実施例によれば、外体1と内体2との間に空間がある為、それだけ外体1への伝熱を抑制でき、更に、外体1の内底部には断熱空間形成用板材6が配設され、この断熱空間形成用板材6により、外体1の内底部の上方に断熱空間S2、S3が形成されるから、この断熱空間S2、S3及び断熱空間形成用板材6により内体2内で燃焼する燃料（炭）から生じる熱が遮られて外体1の底部への伝熱が抑制され、最適な卓上用のコンロとなる。

【0029】また、本実施例は、外体1の内底部上方に断熱空間を形成する手段として外体1の内底部に載置される脚部4及び外体1の内側部に当接する当接部5を有する断熱空間形成用板材6を採用したから、外体1内での収まりが非常に良く確実にその機能を発揮し、しかも、板材故に従来例に比して安価に製造できコスト面において秀れるとともに、簡易構造であるから量産性にも秀れることになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本実施例を示す正面図である。

【図2】本実施例に係る要部の説明断面図である。

【図3】本実施例を説明する平面図である。

【図4】本実施例を示す平面図である。

【図5】本実施例に係る要部の説明斜視図である。

【符号の説明】

R 空気流通路

1 外体

2 内体

2a 開口部

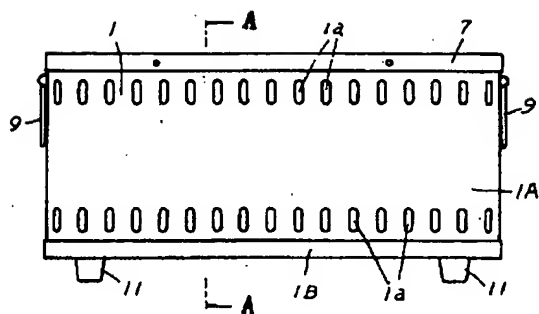
3 火格子

4 脚部

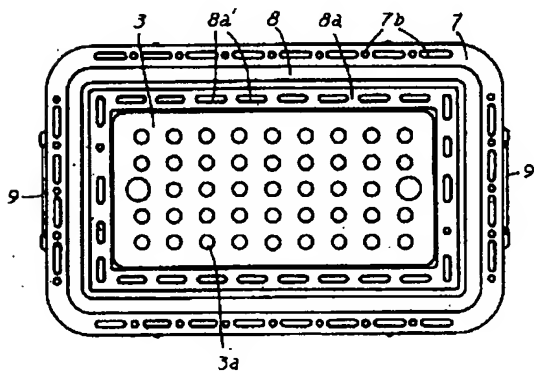
5 当接部

6 断熱空間形成用板材

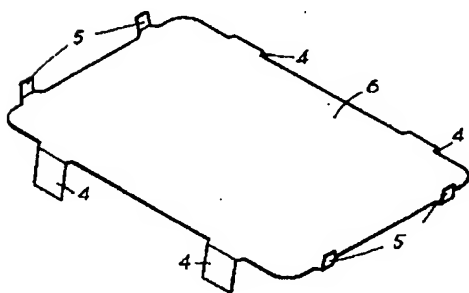
【図1】



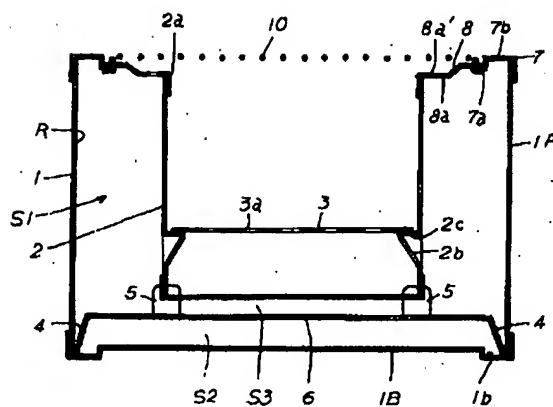
【図3】



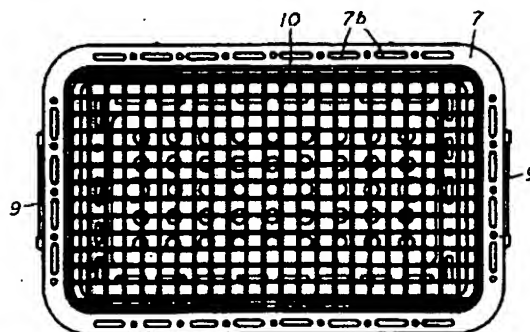
【図5】



【図2】



【図4】



BEST AVAILABLE COPY